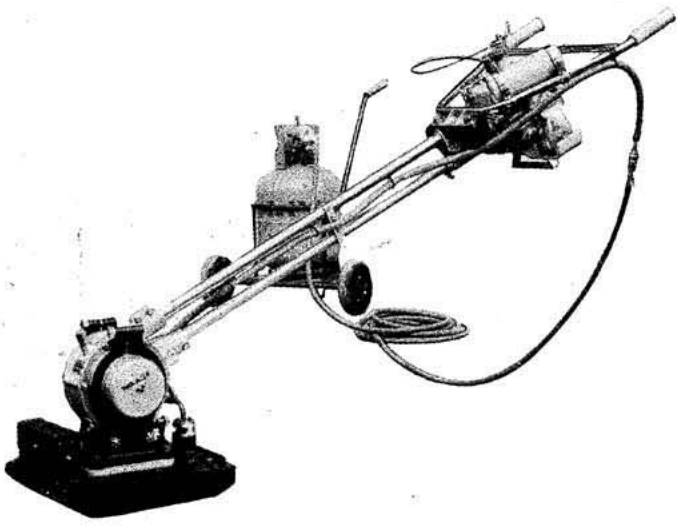
三笠産業ニュース

発行所
東京都千代田区神田猿楽町
三笠産業株式会社
電話 東京 (292) 1411 大代表

アスファルト舗装の仕上げに

ヒートコンパクター

新製品



MHC-P型　ヒートコンパクター

特許出願中

ヒートコンパクターに就て

昨年来考案研究中であつた加熱振動式ポータブル型アスファルト仕上機がこゝに完成致しました。

本機は、補修工事に於て路盤輾圧とアスファルトの輾圧仕上げとを合わせて行う事の出来るものです。又一般のアスファルト舗装工事に於ても、ローラーで不可能な狭隘な場所や路肩の仕上げに最適であり、舗装後路面に残されたローラーの鉄輪によつて出来る条痕を消したり、むらを取つたりして、小廻りの利く軽量小型機としての応用範囲は非常に広く、しかも作業中アスファルトが輾圧盤に附着するような事も無く、運転は自走式ですから楽に作業する事が出来ます。

能力は、一回～二回輾圧することによつて路面が平滑美麗に仕上りますから、アスファルト工事にはとても便利な万能仕上機です。

「主なる特徴」

(1) 本機の構造は先端部に一軸上下振動方式の起振体とプロパンガスによる加熱式輾圧盤とを備え、後部の手元にエンジンと防振ゴムを介して高さの調整自由なハンドルが取付けてあつて、先端部と後部は長い駆動軸で結ばれています。起振体と操作ハンドルとエンジンとが各々遠く離れている為、エンジンにも使用者にも作業中手元に伝わる振動が極めて軽微であり、又、プロパンガスによる加熱焔がエンジンに影響する心配なく安心して作業が進められます。

(2) 本機は小型軽量のポータブル形式ですから持運びが簡単で、大型機では不可能な狭溢な場所での作業が容易で、而も毎分一〇米の自走力と二・五トンの輾圧力とにより理想的な高性能を発揮してくれます。

(3) 輾圧盤は四十五度まで調整自由に加熱されますから加熱アスファルト舗装は勿論のこと、常温舗装の場合でも、輾圧盤にアスファルトが附着することなく、適度な振動輾圧により混合剤の分離もなく、完全に締固め仕上げする事が出来ます。又、一定個所を高温で加熱する事も出来るので打設後の継目の仕上げなどには好適です。

(4) 加熱装置は独特の構造により強風下でも安全に而も熱効率よく一〇kgボンベで三十時間使用出来ますから極めて経済的です。又、点火ノズルを備えていますから安全且つ容易に点火する事が出来ます。

(5) 起振体と輾圧盤は三重の断熱方式により完全に遮断されています。

(6) ガスボンベは移動車に積載され一〇米のゴム管とボールジョイントにより本機に連結されていますから作業中の移動が極めて容易です。

(7) アスファルト輾圧仕上げの他、ガスボンベ用の移動車を切り離すことにより普通のバイブロコンパクターとして路盤輾圧にも使用することが出来ます。

加熱アスファルト舗装工事に於ける路肩の輾圧仕上げとローラーの鉄輪によつて出来る条痕直し

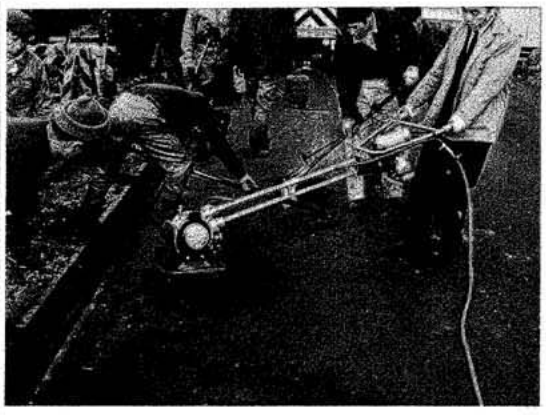
大型機では不可能な電柱や塀など障害物のある三角地帯で而も新旧舗装の継目を完全に仕上げる
(写真はアーミンカットアスファルトを使用)

(搭載エンジン仕様)

型式名称	ロビン　KN22
種類	2サイクル 空冷ガソリンエンジン
筒径×行程	36㎜×32㎜
総排気量	32.5 cc
最大出力	1.6 PS
定格出力	1.2PS / 6000rpm
燃料消費率	430 gr / PS / h
気化器	三国工業　M / 1
燃料タンク容量	0.7 ℓ
潤滑方式	燃料混合油飛沫式
使用燃料	混合比ガソリン 20モービル油 1
マグネト	F66A—15
点火栓	NGK　C7—HW
始動方式	ロープスターター
重量	3.8 kg

(仕　様)

型式	MHC—P型
全長	約1710㎜
輾圧盤の大きさ	350×400㎜
振動方式	一軸上下振動
加熱方式	プロパンガス燃焼 (燃焼量調節式)
振動数	毎分 900～1000
自走速度	毎分 10m
輾圧力	2.5 トンローラーに匹敵
クラッチ方式	自動遠心クラッチ
重量	65kg (プロパンガス移動車を除く)



従来は加熱と輾圧を二人で施行していたものを本機により同時に而も迅速に仕上げることが出来る

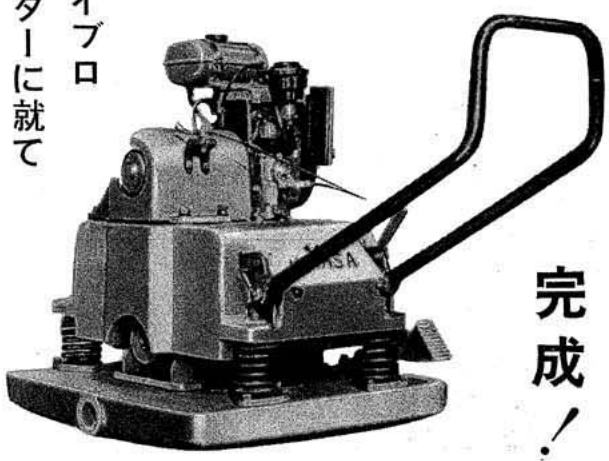
アスファルトフイニッシャー通過後の加熱輾圧仕上
(手前の仕上面は本機を通した一回の輾圧面)

5型(特大型)

バイブロコンパクター

MVCS 5型バイブロコンパクターに就て

今回新設計により改良された本機の特徴は、傘歯車駆動方式により一軸上に配置された三個の振子を内蔵する起振体に強度の振動を与え、其の揺動により前後進を行うようにしたものです。しかもこの振子の配置は、前後に同じ形状の振子を一対として、具備させ、更に中央に前後の合成された重量の振子を保有せしめて、前後一対の振子と中央の振子とが傘歯車により正逆回転する様になつていて、その際、軸に不当なる偶力が発生しないよう振子の配置を考慮してあるため、常に適正な機体振動を得られ、この起振体装置が、輾圧板上に揺動自在に搭架されてあります。又足踏ペタルにより極めて容易に前後進させることが出来ます。本機の輾圧効果は一〇屯ローラーに匹敵し、主として、道路、築堤、滑走路等の地固め工事を始めとし、瓦斯管、水道管、ケーブル線等の敷設工事に於ける、埋戻し、盛土などした上を搗き固めるには頗る好適で、特に狭い工事現場の作業には、ローラー式の大型機よりも遙かに扱い易いのが特徴です。



完成！

(MVCS-5型　仕様書)

型式	MVCS—5型
振動板の長さ	800㎜
〃 巾	790〃
総高さ	960〃
振動方式	一軸偏心上下振動
振動数	900～1,100
自走速度	前後進毎分 8～5m
輾圧力	8～10屯
クラッチ	自動遠心クラッチ
重量	約700 kg
電略	サコト
(搭載エンジン仕様)	
名称及型式	ミカサM4L型
機関の種類	強制空冷四行程側弁式
気筒数	1
気筒直径	65㎜
行程	60㎜
総排気量	200 cc
圧縮比	6.0:1
標記出力	4 PS / 1800 rpm
最大出力	5.5 PS / 2250 rpm
最大トルク	1.94 m-kg / 1400 rpm
燃料消費率	1時間1馬力当り 280瓦 (標記出力にて)
気化器	MIC　B21-6-8
点灯性能	6～8ボルト　15ワット
点火栓	NGK　B-4
空気清浄器	オイルバス式
始動方式	手動ロープ式
潤滑方式	飛沫式
調速器	遠心重錘式
燃料槽容量	4.0立 (2升2合)
潤滑油欄容量	0.8立　夏期SAE 30　冬期SAE 20
使用燃料	普通自動車用ガソリン
機関寸法	364㎜×475㎜×431㎜ (長サ×巾×高サ)
機関乾燥重量	24.5kg

上海の日工展に臨んで

北京から上海へ会場を移した日本工業展覧会の説明と実演のため、十二月六日（月）午後二時羽田を発つて、夕方六時香港に着く、其の夜は異国情緒豊かな金門酒店に泊り、翌七日より九日までの三日間を専ら香港支店の日本商社訪問に当つて、先に納入した我が社製品の評判を聞いて廻ると同時にユーザーに対するPRの強化と拡販運動に就て今後の打合せなど相当忙しい毎日が続いた。十一日から二十日までの上海に入つてからの十日間は、殆ど日工展の会場に詰め切つて我が社から出品した機械の説明や実演に連日追い廻されてしまつた。

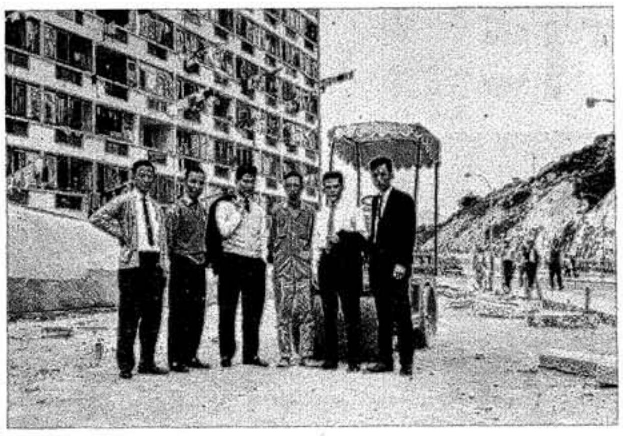
香港は自然条件に恵まれ世界の観光地として多くの観光客が訪れる他、自由貿易港として相変らず繁栄している。香港は従来仲介貿易で発展してきたところだつたが、現在はその姿も次第に薄れて、外国から原材料を輸入し、これを加工製造して、その製品を海外へ輸出するような姿に変つてきている。それと英国の植民地だけに、今までは英国製品が非常に多く出廻つて居たが、最近では日本メーカーも積極的に働き掛けるようになり、市場には日本製品も多く見られるようになつたとのことである。

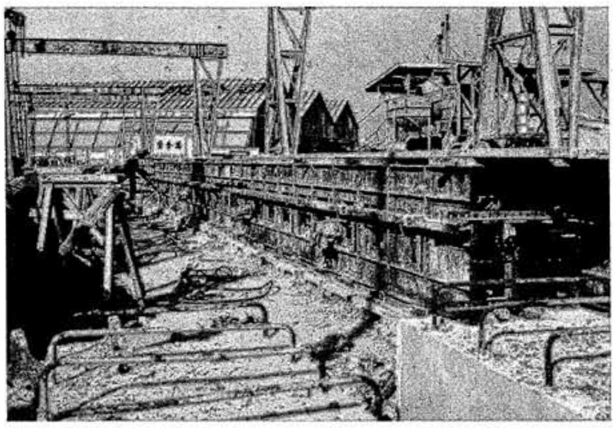
S社香港支店O氏の御案内で港興建築公司の現場を覗く、目下我が社のMRVー12型バイブレーションローラーを使用して、ジータン、ロードの奥に面した道路の一部を舗装中であり、現場主任の話によると香港の土質は世界的に珍らしい岩盤土壌なので、相当強力な輾圧力がないと使いものにならないが、三笠のローラーは、上下振動の輾圧効果が実に素晴らしいと云つて頗る好評であつた。殊に全社の戴本嶽社長は大の親日家で、メーカーが日本から納入機械の使用状況を見に来てくれたと云うことで大変感謝された。

続いてMVK＝FM型枠振動機を二十二台納入した橋桁製造工場のボールリー社を訪れた。此処でも非常に調子がよいと云うことで、来年は三笠の内部振動機や路面輾圧機も使用して見たいと云つて居られた。

更にN社と、I社の各支店を訪問、担当員の御案内で納入先を一巡して三日の行程を忙しく終了した。

十日早朝九龍駅を発つて香港側の出境地点羅湖駅に到着、徒歩で鉄橋を渡つて中国側の深圳駅にたどり着き、此処から広州へ向い、翌十一日広州空港から三時間半で上海に到着、和平飯店に投宿する。上海に於ける日工展は、初日の十二日（日）に会場に当てられた人民広場の新大桜五桜五〇六室で建築技師約二〇名を迎えて我が社の出品機械に就て説明会を開いた。


港興建築公司の舗装現場にて三笠中型ローラーを前に記念撮影


三笠型枠振動機を取付使用中のボール・リー社作業工場

現在中国に於ても振動機や輾圧機は既に一部使用されているところもあるとのことなので、一応製品の構造、効果、修理方法等を順次説明してゆくことにした。最初通訳の方の技術用語に不慣れの点などもあつたりしたので、結局筆談で行なつた。勿論自分自身にも準備不足の面もあり、何んとなくギゴチなく、何か重苦しい空気が漂うていて、いくらこちらで一生懸命に説明しても、果して相手がどの程度理解してくれているのか、それがハッキリつかめないため不安な気持で一杯だつた。ところが回を重ねるにつれて、参加者の数も減り熱心な人だけが残つて、質問も活発になり、仲々ツボをついた質問が盛んに出て来てからは説明も知らず／＼油が乗つてきて、熱心にメモする人を見ると、つたない自分の説明がこれほどまでに解つて貰えたのかと思うと嬉しくてたまらなかつた。

中国は自力更生というスローガンのもとに、自分達で社会主義国家を建設するのだとの意気込みにあふれている。そして広大な土地と、古い歴史とをもつ中国は今や国民が団結して大中国の建設に全力を挙げているのである。一部の面では非常に高度の技術を持つて居るだけにどの技術者も非常に研究熱心で必要とあれば、どんなものでも自ら進んで選ぼうとしている。だが彼等には、常に友好精神と云う基盤の上に置かれたものでない限り、如何なる取引きにも応じようとしないのである。其処で今後の貿易は、あくまでも中国を信頼し、中国が日本の持つ技術を模倣して、国産化するのではなかろうかと云うような危惧の念を抱かないで、充分納得の行く技術説明をしてやることが今回日工展へ出品した目的であり、はるばるとこんな遠いところまで来た私の使命でもあると思つたので、進んで我が社製品の技術を公開すると共に、説明と実演に一段と馬力をかけたわけである。それがためであつたかどうかは知らないが、午前中説明会を開けば、午後は必ずと云つてよいほど実演を要求されるといつた熱心さで連日盛況を極めた。

十九日（日）と二十一日（火）は一般参観日、二十日（月）は専業参観日で何れも五万から七万の入場者があり、二十一日午前三時を以つて大成功裡に閉幕した。

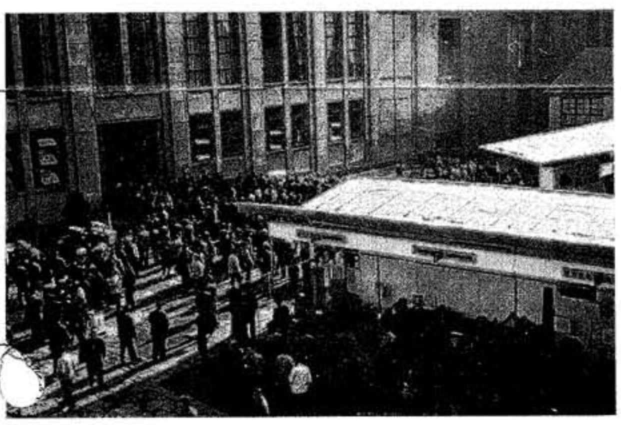
次に閉会式の模様を簡単に記すことにする。

会場内の東会館に設けられた、日工展閉会式に招かれて、上海市長代理李氏の相互理解の上にのみ、貿易の発展はありとの、趣旨の挨拶が行われ、此れに対し、日工展隅井事務局長から、友好の増進と相互理解を深め貿易を発展させるという、日工展の基本方針は此処に十分実現遂行し得たと、中国側の協力に対し感謝の意をこめた挨拶が行われた。そして、中国側服務員と日本側出品者は展示会場別に相向い合つてテーブルを囲み、中央に準備された中国料理を各自めいめい皿に盛り合せ、食べながら歓談した。折しも中国側青年男女の一団が、思い思いの衣裳を装い、ステージに立つて、団結と建国の意志を織込んだ「トンハンホン」を高らかに歌いはじめた。其の彼等の溌剌とした態度に現れた偉大なる中国の民族性を再認識して感鳴一入深いものがあつた。

上海市に於ける日本工業展覧会の会場正面入口

我々も知らず／＼これに応えてお互いの国の歌を披露し、交歓するというなごやかな雰囲気のうちに此の会は進められた。その中で「日中友好万才」と書れたプラカードをもつて、「東京ー北京」の合唱が始まつた時、誰とはなしに立ち上がつて全員の大合唱になつた。此の光景は、正に日中両国の友好的大交流で、日工展のかがやかしい成功を象徴しているかのように感じた。そしてこうした純粋な友情の深まりがやがて、出席者の人々の心の奥深く銘じたことであろう。同じような顔色、同じ文字による意志の交流は、一層親近感を高め、此のような熱烈な、大規模な、組織的な雰囲気に包まれた閉会式は、労働歌を最後に幕を閉じた。我々日工展団員は、歌声の中を片言覚えの中国語で、トンジー（同志）ツアイチイエン（いずれまた）を繰り返しながら堅い握手を交して、別れを告げ和平飯店を辞した。

（営業輸出課　高野長四郎）


日工展専業参観日に集つた観客

三笠製品展示場前にて120型タンピングランマーの実演

三笠館林工場の増築落成近し

前号で発表した館林工場の増築は、地元水谷建設の施行で、其後順調に進められ、予定通り二月十二日に地鎮祭を挙げ、二月二十六日には上棟式を済ませて、目下四月八日の落成を目指して鋭意完成を急いでいます。

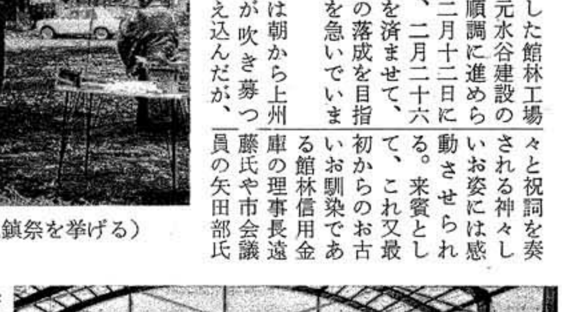
地鎮祭の日は朝から上州名物の空ッ風が吹き募つて、かなり冷え込んだが、それでも晴れ渡つた空には燦々と早春の陽が輝き、今日の佳き日を迎えて、いかにも我社の前途を祝福してくれるかのように思えてならなかつた。

（田島宮司の司祭で工場地鎮祭を挙げる）

我が社では最初に館林に工場を建設した時から今日まで一貫して、尾曳神社の田島宮司に司祭をお願いしている。宮司は本年七十六才の高齢であられるにもかゝわらず、正に壮者を凌ぐと云つた矍鑠振り[illegible]何時に変らぬ御元気な[illegible]で朗々と祝詞を奏される神々しいお姿には感動させられる。来賓として、これ又最初からのお古いお馴染である館林信用金庫の理事長遠藤氏や市会議員の矢田部氏も参列されて、小人数の集りではあつたが、いとも厳粛に京谷社長、水谷建設の小林専務と次々に鍬入れも済んで、一同芽出たく手拍手を打つて神酒で乾杯し、記念すべき地固めの式を恙なく終つた。

（京谷社長の鍬入れ、後方に立てるは小林工場長）

上棟式は、これ又絶好の春日和に恵まれ、ほんの内輪だけの催ではあつたが、又しても田島宮司を煩わして、すつかり骨組の出来上つた青空工場の真中に祭壇を設け、今日ばかりは田島宮司の奏する祝詞も一ときわ冴え渡つて、落成真近な工場の鉄骨を嬉しくゆさぶつてくれた。式が終つてから社長室で班長以上の幹部工員が集まつて祝宴を張つた。


（上棟式に於ける京谷社長の玉串奉奠）

来年は、我が社の創業三十周年を迎えることになるので、館林工場の増築が終り次第、春日部工場の改築に取りかゝる予定で、この改築は現在の工場の最後尾にある倉庫を解体して、工場を延長させ、其処へ設備機械を移そうと云うものです。更に本年秋頃から本社の隣接地で現在駐車場として使用している空地を本格的に増築し、完成の暁には、一階を駐車場、二階を営業、三階を技術、四階を経理にしようかと云う案が出て居ます。

何れにしても、工場も本社も全部揃つて出来上るのは来年の今頃になるのではないかと思います。

（骨組が出来て、コンクリート塀を立て始めた増築工場の全景）

三笠産業俳句

穂波選

館林　武井　光彰

○猫柳奔流となり川曲る

（評）雪解の溪流は美くしい、岸辺の猫柳は真珠のような花をつけて其の行方を見つめている、早春にピッタリとする風景である。

春灯や焦燥となり句座黙す

そこはかの過去の影もつ初袷

横浜　村松　春陽

○白足袋にふるゝ冷たさ仏堂

（評）京都か奈良の仏殿に詣でた時の実感か、白足袋とあるだけで充分御堂の冷たさが感じられる、殊更に冷たさと云つたことは蛇足のようでもあるが面白い。

只ならぬ事のみありぬ春の雷

東京　大井　敦子

水音す土壌の端のすみれ草

辻堂　川口　孝行

残されし梅ほころびて空家かな

東京　森　昭男

○耳たぶのしろき女なり春の宵

（評）耳たぶの白い女と云う表現は何か春灯下の美人を思わせるものがある。

東京　坂本　実

窓越しに映えて明るき椿かな

浦和　磯部健一郎

病室の窓開けてやる桜かな

横浜　加藤　翠光

山彦に子等の声して春の山

作者不詳

粕汁や雪あびて子等帰り来し

選後吟

雨止む間海案に傘立てゝやり

次号俳句募集
当季雑詠　1人　5句以内
用　紙　ハガキ又は便箋縦書
締　切　6月20日
社外からの投稿歓迎
○印には薄謝を呈す

代理店訪問記（4）

宝物産株式会社

広島市基町十二番八号

中国路第一の都市「広島」大平洋戦争に終止符をうつた原爆の都市「広島」その名は今や世界的に有名になつています。

想えば、余りにも残酷な原爆の爪跡、荒寥たる焼野原、赤焦にたゞれたビル、へし折れた鉄骨、思い浮かべるだけでも当時の悽惨さが忍ばれます。然しながらこの闇の中から復興への一抹の光明を見い出し、雄々しく立ち上つた市民の献心的な努力が今日の明るい広島を生みだしたものと思われます。

表玄関も民衆駅として美観を呈し、市の中心部、繁華街、東京の銀座か、大阪の歓楽街、或いは御堂筋とも言えるメインストリートに堂々と大店舗を構えて居られるのが、宝物産株式会社の御本社です。

（宝物産株式会社本社々屋）

創立は昭和二十一年三月、広島建設工業株式会社の名称の下、総合建設業者として各官庁や電力会社、一般民間会社等の土木建設工事に従事されて居られたが、昭和二十六年十月、宝物産株式会社を設立して、前記建設会社を統合され建設機械器具の販売を開始、更に電気冷暖房部をも併設して今日に及び、広島を本社として、福山、徳山に各営業所を設置されて確固たる地盤を築かれたものであります。

昭和二十七年の夏頃であつたと思いますが、その当時はいまだバイブレーターと言うものが少数の人しか知らなかつた時代でした。

広島を降り立つてゴミゴミした街をぶら〳〵しながら、どこかに良いお店でもないものかとフト全社の店先まで参りました。

すると店先に平面振動機の平面盤のみが置いてあつたので、これは〳〵と早速社内に入つて行つて、其時初めてお会いした方が松原専務でした。

「あの一平面振動機は販売されているのでしょうか…」と問合わせました処、製作しているのですよ一、之からの時代はこの様な新しい商品を考えねば儲からんですよ一、との返事でした。

お話をしている内にいつしか意気統合し明かるい土産を沢山頂いて帰途についたことを未だにハッキリ覚えています。これが動機となつて十二年有余の永い御取引が続いているのです。

末長等社長は誠に温厚誠実な方で、社員の人望も殊の外厚く、常に状勢の観察力が鋭く、外にも極めて明朗で、其の上ハンサムで英国紳士を思わせる様なお人柄です。

更にこの名社長ありて、この補佐役ありとでも申しましようか、現建設部門担当重役の松原専務の存在も又異彩を放ち十年一日の如く黙々として業務に精励致されている御熱心なお姿には実に心を打たれるものがあります。常に研究心が深くて永年の経験を生され我が社の製品に対しても、絶えず親身になつて卒直な意見を寄せられ良きアドバイスをして下さる御好意に対しては何時も心から感謝しています。

尚その膝下には実行力研究力共に旺盛な、大上課長あり、他部門の電気部には山口常務、冷暖房技術部門には御舎弟の末長常務ありて、五十有余名の社員を擁して、いずれも、各重役の御好意に対しては自づと頭が[illegible]ろしきを得て、宝[illegible]身に付け広島商人の[illegible]とは誠に賞賛に価するものがあります。

特に我等が最も信頼出来ます事は代理店としての重責を感じ積極的に協賛下され、ライバル商品、類似商品の販売を避けて終始一貫三笠オンリーの専門販売を今日まで持ち続けて来られた御[illegible]に対しては自づと[illegible]す。

毎年八月六日、原爆降下地点に於て全市を挙げて犠牲者の冥福をお祈りしています。これは永遠に忘れることの出来ない広島の大きな行事で御座いましよう。

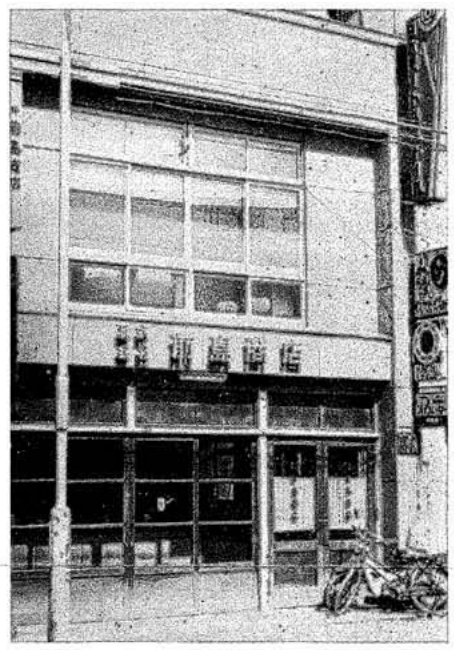
広島と言えば先づ「牡蠣」料理、口の中に入れてとけ込む本場の味は、広島ならでわと云うところです。

秋は――「宮島」朱塗りの大鳥居の彼方に真赤に沈み行く夕陽の風情は旅するものの心を慰めてくれます。

終りに宝物産株式会社の益々の御発展と社員各位の御健康とをお祈してやみません。（安部記）

株式会社前島商店

岡山市綿町六番十五号


（(株)前島商店社屋）

天下の名城、白鷺城を車窓遥かに眺めて約一時間、四国への分岐点岡山駅から徒歩で十分ほど行くと、商業地の中心に接して我が岡山地区代理店の前島商店の美しい店舗が目に入る。

全社は、昭和二十年一月、岡山市岩田町に於て前島工業用品商会として創立され、昭和二十六年八月名称を現在名に変更せられたものです。

創業当時より機械工具類の販売を専業とされ、社長、前島斉氏は、事業一途に邁進され自ら卒先実行、和と誠実を信条とされ、常に業界の変遷をいち早く「キャッチ」される先見の明と機敏に立廻われる行動力とにより今日の地位を築かれたもので流石に大阪仕込みのどえらいすじ金が入つて居られるようにお見受けしました。

三笠製品を御扱い下さつてから十年余地元に於て着々と御実績を固められ何時も代理店中の上位にあつて御活躍され、我等も深く御信頼を申上げて居ります。

従業員の各位も永年の御勤続者が多く、建設部門に、太田部長、堀元課長の双璧を擁し、日頃の御健斗は目覚ましいものがあります。

又機械工具部に於ても、御舎弟を主軸として御努力をされて居られます。

岡山は人も知る池田侯の城下町で米の成る木が豊富なせいか何処となくのんびりとした処があります。

城跡の周辺には日本三大名園の一つで有名な後楽園があり、そこを流れる旭川の清流に糸を垂れている太公望も見られます。

「私は備前の岡山育ち、米の生る木はまだ知らぬ一」と言う諺も聞いています。

「おえりやあ一せんの一」「おえんぞな」「駄目ですよ一」の意味「おいでんせい一」「いらつしやい」と言つた風に岡山の国なまりは、いかにものんびりとした口調、これは既に、長門勇が全国的にPRをしていますので一躍有名になりました。

岡山駅を下り立つた人が先づ目につくのは日本一の桃太郎が犬とお猿さんと、きじを引つれた像のあることです。これが名産日本一のきびだんごで、他に有名なのは「マスカット」です。

この城下街もやがては超特急新幹線の岡山までの延長成ると共に大きく変容することでしよう。更に四国への夢の掛橋と岡山との交通は愈々活発となり飛躍すべき「チャンス」の訪づれも真近く此の際全社の今後の御発展を祈つて已みません。

最後に社員の方々の御健斗を切にお祈りして次の機会にゆづることに致します。（安部記）

松本鋼機株式会社

神戸市兵庫区東柳原町五六

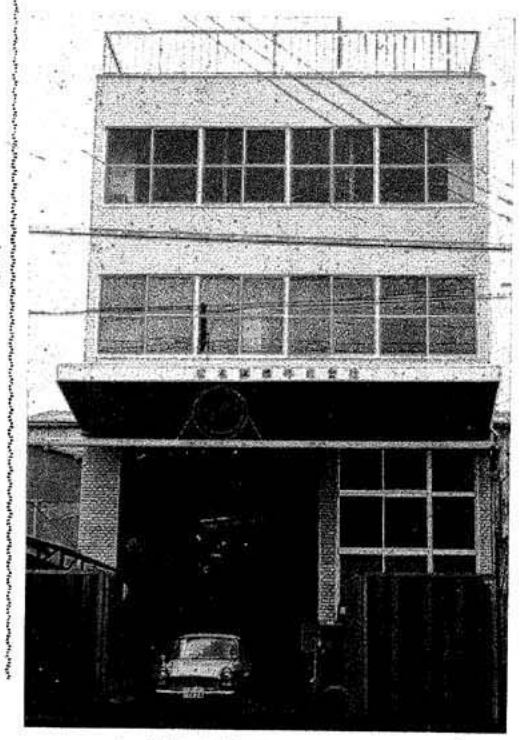
須磨の海に臨み、六甲の山なみを眺められる神戸は、横浜と共に日本の海の玄関であり、ミナトコウベの名は海外にまでも知られて余りにも有名である。松本鋼機さんの本社は神戸駅から程近く、前に高速道路、後に山陽本線が走つて居て文字通り交通至便の場所である。

ところ狭しと積まれた建設機械類の梱包姿を眺めながら一階入口の営業部の皆さんに御挨拶、正面の奥に整備工場があり、四階建の社屋の上の方まで吹抜けになつていて、大型の建設機械の整備も楽々と出来る程の設備には全く目を見はらされる。松本社長御自身、私は五十才になつたらゴルフを始めますが目下趣味はなしで県内をガッチリ固ありません、と仰しやつたが、社内に立派な油絵を何点かお見受けしたのは、美しいものを愛するお人柄とお見掛けした。六甲ライオンズクラブに所属されている近代的な紳士である。神戸人は一見取付易い様だがなか〳〵入り切れる者がなく東京、大阪の出身者で神戸で成功した者は少ないそうだが、江戸ッ子の松本社長が創業以来二十年、今日の成功を見たのは並々ならぬ手腕を振るわれたものであろう。

土木建設機械器具の総合商社である松本鋼機さんはその八割がメーカーからの直接仕入の由。本社に第一、第二の両営業部を置き、姫路、豊岡、福知山、洲本の各地に営業所を設置されて県内をガッチリ固め、更に総合サービスセンターを設けて、万全を期して居られる強力な組織はたのもしい限りである。

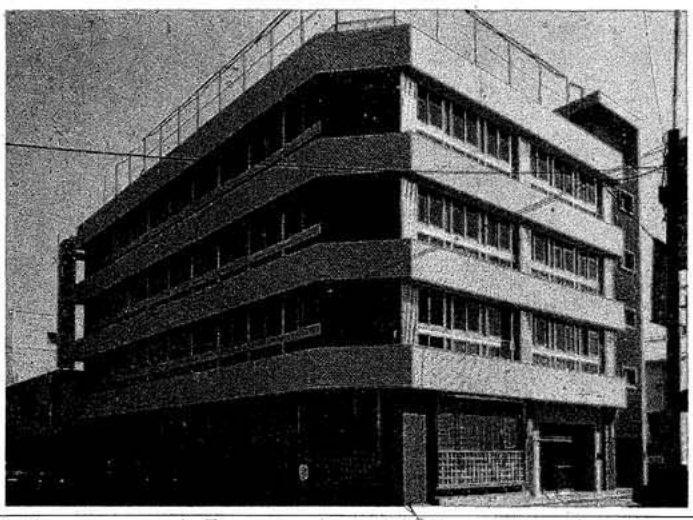
「愛され信頼される営業、働き易く住み易い職場」をモットーとして、日夜貴い努力を傾注して居られ、従業員の皆さんは総数七〇名。この内約半数の方が技術サービス専従と言うのも、松本鋼機さんの大きな特色であり、単なる商品の取次商社ではない、と松本社長の自負して居られるところ、もつともとうなずけられるものがある。

昨年は三笠のタンピングランマー、インパクトローラーの拡販に優秀な成績を収められた。近い将来に山陽新幹線、高速道路の建設と相つぎ、此の地方の面目も一新されるであろう。松本鋼機さんの前途も洋々たるものがあると思われる。益々の御発展を祈つて全社を去ることにした。（森記）


（松本鋼機(株)本社々屋）

株式会社オノマシン

大阪市西区立売堀北通四の三一


（(株)オノマシン本社々屋）

大阪の立売堀だけではおわかりにならない方でも機械屋さんのたくさんある所と言つたら直ぐあゝあそこかとおつしやるでしよう。

昔は立売堀川へ地方から船で木材を運んで来て、この辺一帯で立売をしていたので「立売堀」と言う様になつたとか聞いています。

大阪の町には東の洋服屋街、西の機械屋街、南の小間物屋街と言つた様に各所に商店が集結しています。これは自然のうちに集つたのか、或いは大阪商人の商売上手か、それとも地方から買入れに来た方々の便宜を計るため一ヶ所に同じ種類の商品を並べて、あそこへ行けば何んでも買揃うと言う利点を考えたものかも知れません。立売堀に機械屋の集まつたのも、こうしたことに起因しているものと思われます。

其の立売堀のど真中に堂々たる四階建のビルを構えて居られるのが、我が社の最初の代理店オノマシンです。

全社の創業は大正十五年二月で当時立売堀四丁目二一番地に小野逞三商店として機械工具の販売を開始し、爾後着々として其の基盤を築きつゝ、年々隆昌を続けていたのでありました。

ところが昭和二十年三月彼の大阪大空襲により店舗は全焼、街は一瞬にして廃虚と化してしまいました。

しかし剛気な小野社長は逸早く再起されて、機械屋の町、立売堀復興のために立売堀振興会を結成して、日夜再建に涙ぐましい努力を続けられた結果今日のような大立売堀機械センターを造り上げたのであります。小野社長は現在立売堀振興会の会長であるばかりでなく大阪機械工具連合会の会長にも就任されて居られ業界は勿論のこと町の人望家として地元民の尊敬の的となつて居られます。

其後全社は昭和二十一年七月、前所に店舗を新築されて、元の商売を再開したところ、以前にも増した繁昌振りを示したので、社名を「オノマシン」と改めると同時に、昭和三十八年六月、鉄筋コンクリート造り四階建のビルを完成されて将来への発展を企図して居られます。

社長小野逞三氏は前述の様に業界の実績実に四十有余年の永い御経験を持つて居られ、全社御発展の根源は即ち信用と誠実「愛される商人になれ」「血の通つた御取引をお願いしたい」「利は人にあり仕入先を大切に」との社長の理念に基くもので、常に研究心の旺盛さは現在発明品の特許三九件、実用新案二二件の登録がこれを雄辯に物語つて居ると思います。

現在全社の営業運営は専務の小野順一氏が主体となつて、厳しい商戦に新風を吹き込みながら現代企業の確立に健斗されて居られます。

全社は全国的な広い販売網と海外貿易とがよくマッチして社員八十名は新進気鋭の兵揃いで何時も張り切つて居られます。

三笠製品の販売も西部地区代理店では常に上位にあり、さすが「のれん」老舗たる貫録充分と云うところです。

どうか此の上共産業都市大阪の面目にかけて、商魂逞しく明日への希望を以つて邁進して頂き度いと思います。

終りに臨み、株式会社オノマシンの益々の御発展と社員各位の御健康をお祈り致します。（森記）

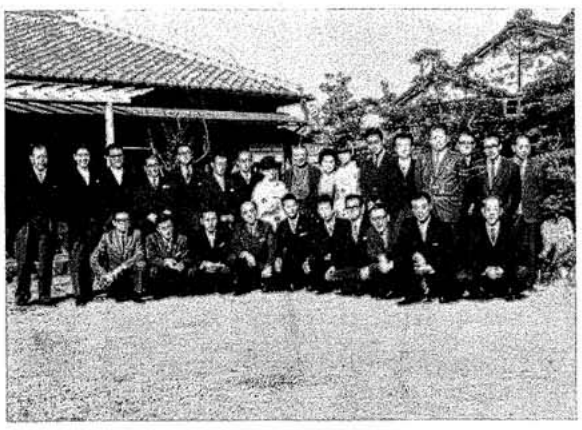
京谷社長宅新年会

（一月三日葉山かぎや旅館にて）

昨年の不景気を吹きとばしたような快晴の新しい年、三日に例年通り全社員が葉山の社長宅に招かれてにぎやかに祝賀の宴が張られた。新春の陽を庭いっぱいにうけて、社長御夫妻のお顔も一入明るかった。しかしこの笑顔の中にも「今年こそ」と云うファイトが御馴みの森戸海岸「かぎや」に勢揃いしてやがて社長より今年の我が社の新方針が発表され、全社員「まかしとけ!!」といった雰囲気の中で祝宴が始まった。社長も社員も一つに解け合う伝統的ないつもの三笠の調和がそこにあった。

宴は和やかのうちに幕をとじ三々五々「かぎや」を飛び出すと、さすがに冬の夜は冷たく、ほろ酔い気分は何時しか潮風に乗つてさて―、いづこえ……

（松下報）



京谷社長宅の芝生に御夫妻を囲んで

珍らしい騎砲会の集い

（一月二十四日箱根大平台弥千代荘にて）

新年号で午年に因んだ軍隊での馬のお話を載せて置いたところ、それが動火線となつたわけでもないだろうが、突如当時の戦友から新年会を開くから顔を出してくれとの案内が来た。幸い其の前日が会社の新年会で箱根の塔の沢へ行くことになつていたので其の帰りに参加することに決めた。

さて余りにも、久しい会見だけにどんな顔振れが揃うのかと多分に興味を抱きながら出席して見ると、何んと何れも白髪頭や禿頭の老人ばかりで、これが当時騎砲のチャキ〳〵の若武者であつたとはどうしても思えなかつた「やあー〳〵暫らくー四十年振りだねー」とか「お互に年を取つたねー」とか「孫は何人あるかねー」なぞと、どうにも調子が合わない、其の頃盛んにビンタを喰らつた者もたしかこの中に居た筈だが、それも誰だつたかさつぱり思い出せない「君はよく飲んだねー、飲むと話がくどくなつて、よく手こづらされたもんだよ」と今頃になつて苦情を云われたり、「たしかあの頃は髭をはやしていた筈だが」ととんだところで其の頃の化けの皮をはがされたりしてすつかり面喰つてしまつた。

やがて酒宴に入り固苦しい社会語からやがて軍隊語に変つて、いつの間にやら四十年前の新兵になりすまして夜の吹くるまで懐旧談に話を咲かせた。

三笠初午祭

（二月三日本社屋上にて）

豊川稲荷を我が社の屋上へお祭りしてから三回目の初午祭が午後四時から、住友、三菱、群馬の各銀行の支店長さんや係の方を始め笠友会、松浦会、きようなろ会の会長さん達と、我が社から主任以上が参列して盛大に取り行われた。

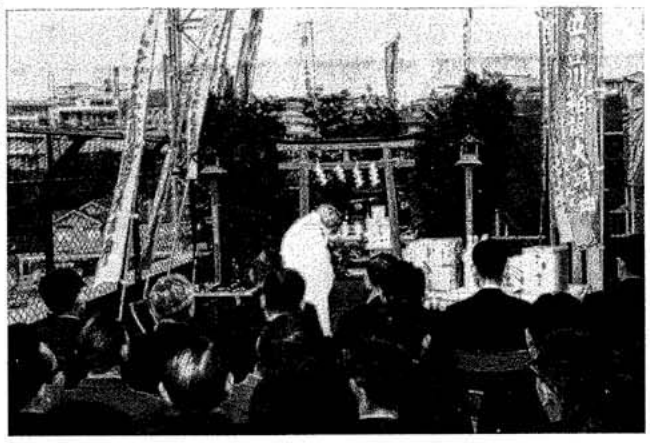
昨年までの悪天候に比べて今年は、雲一つない快晴に恵まれ稲荷社の周りには、微風に小幟がはためき神田明神の加藤神官の奏上する祝詞、雅楽越天楽のレコードも厳かに大空へ吸い込まれていくような神々しさを感じた。今年は、午の年にちなみ増々馬力をかけて三笠の発展をと、社長始め幹部社員来賓の方々と順次玉串を奉奠した後一同御神酒を頂き引続き社長室と会議室とで賑やかに祝宴が催された。

社長は、従来本社の初午祭には式典にのみ参列されて直ちに館林工場の初午祭に臨まれるのであつたが今年は、館林工場へ星野課長、春日部工場へ平戸課長を代参させて、式典から祝宴まで終始本社で張り切つて居られた。

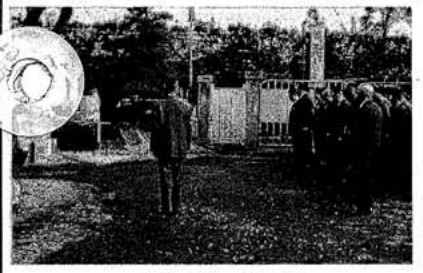
尚館林工場に於ては、例年通り小林工場長主催のもとに午後三時より土地の関係者多数をお招きして尾曳神社田島宮司の司祭で厳かに初午式が挙行された。

又春日部工場に於ても長谷川工場長の主催で土地の名士多数をお招きして八幡神社押田宮司の司祭で何時ものように賑やかな初午祭が取り行われた。

豊川のお稲荷さんは、京谷社長宅にも村松専務宅にも祭られているが、この方は毎年会社で初午祭が取り行われるため、二の午にお祭りすることになつていて、当夜神奈川県葉山の社長宅では出入の職人や普段親しくしている土地の人達や親戚の方なぞをお招きして築山の奥にお祭りしてあるお社へ幟を立てたり、句行燈を吊したり、絵馬をかけたりして、これは又至極古風な午まつりが幾年となく続けられています。



本社屋上に於ける豊川稲荷初午祭



館林工場の初午祭

春日部工場の初午祭

◇道友会創設五周年記念式と第八回東京総会

（二月十二日熱海大和ホテルにて）

中道機械へ建設機械を納入するメーカー四十数社で結成している道友会では、本年恰かも創立五周年を迎えることになつたので、東京道友会（会長三笠産業京谷社長）大阪道友会（会長前川製作所金岡社長）とが合同して記念式を挙げることになり、東西両会員及中道の幹部社員を合わせて約八十名、午後二時から湯の町熱海大和ホテルに於ていとも盛大に催された。

先ず最初道友会執行部中道機械仕入部加藤次長の開会の辞に始まり、中道社長、東西両道友会長の挨拶に次いで、来賓を代表して北海道拓殖銀行伊藤新宿支店長の祝辞があり、最後に中野仕入部長の閉会の辞で一と先ず此の式典の幕をおろした。

引続き京道友会の総会が開かれ、約二時間にわたり中道機械を中心に発展的論議が交され、特に京谷会長から、昨秋来中道機械の黒い噂に就て、ハッキリとした態度が表現され、今後はあらぬ流言やデマに惑はされることなく、お互に自分の足を自分で引張るようなことは慎しみましようと、改めて中道機械への協力が要請され、同席の金岡大阪道友会長からも、これに対して全面的賛意を表され一同深く感銘するところあつて午後五時閉会した。やがて一風呂浴びて、谷社長）大阪道友会（会長午後六時から久方振りに東前川製作所金岡社長）とが西両会員膝を交えての懇親合同して記念式を挙げることになり、東西両会員及中道の幹部社員を合わせて約八十名、午後二時から湯の町熱海大和ホテルに於ていとも盛大に催された。

先ず最初道友会執行部中道機械仕入部加藤次長の開会の辞に始まり、中道社長、東西両道友会長の挨拶に次いで、来賓を代表して北海道拓殖銀行伊藤新宿支店長の祝辞があり、最後に中野仕入部長の閉会の辞で一と先ず此の式典の幕をおろした。

熱海の大和ホテルに於ける東西道友会合同記念撮影

当日の出席メーカー（東京会員）大場製作、加地鉄工、小林工作、山陽工業、三栄製作、新明和工業、新日本鍛工、多田野鉄工、ダイハツ工業、川崎航空、千代田コンベヤ、東京工機、東京架設、南星機械、日本度量衡、日本製鋼、日平産業、早川鉄工、東京浜ゴム、古川さく岩機、前川工業、三井精機、三笠産業、名興機械、明電舎、森試験機、ヤンマーディゼル、ヤマトボーリング、ラサ商事、渡辺機械、鶴見製作、西村車輛、日本製鋼、前川工業、三笠建機（大阪会員）加地鉄工、川崎航空機、川崎電機、正真鉄工、ダイハツ工業、鶴見製作、以上

◇松浦会新年会

（二月十七日奥湯河原山水楼にて）

松浦会（元三笠株主及京谷社長のハルビン時代の旧友の集い、会長三陽商事㈱橘氏、栃木の八菅御夫妻なぜいつになく趣の変つた連せが湯河原温泉山水楼で催された。本年は常連の本会では唯一人の藍授褒賞受賞者である坂田工芸の坂田社長が病欠、東京では八木商店の八木社長、松広洋裁店の松広社長が何れも社用で出張中とあつて顔を見せなかつたのは少々淋しかつたが、それでも、新顔の先輩小戸）橘（小倉）以上十八名

当夜の出席者（島田、片柳、川村、小室、吉田、小林、水上、京谷（東京）能勢、服部、渡辺、川辺（横浜）八菅、仝夫人（栃木）岩田（名古屋）子安（神戸）橘（小倉）以上十八名

奥湯河原山水楼にて撮す松浦会員

原啓蔵前館林市会議長逝く

我が社が、当時多々羅村と云つていた現在の地に工場を建設した際、多々羅村々長として、館林工場の誘致に格別の御便宜を計つていたのが御縁となり、其後館林市に合併して市会議長に御就任されてからも、公私共何かと御厄介をおかけして来た原さんが、突如二月十二日に他界されてしまつた。館林の今後の発展を願うとき誠に大事な人を失つたものである。其の区民葬が十五日の午後一時から三時迄自宅裏の菩提寺で行われ、境内を沢山な花輪で埋めて、生前の御人徳を偲ぶにふさわしい数々の弔辞や、佐藤首相他各大臣其他各地から寄せられた弔電が後から〳〵と続いて、近来稀に見る盛儀であつた。我が社からは、京谷社長と小林工場長が霊前に焼香して深く哀悼の意を表した。

館林市議会では、このほど故人に対し、五等瑞宝章勲伝達式が行われた。

藤山経企庁長官を囲んで日盛会新春初総会

（二月二十二日ホテルニュージャパンにて）

藤山先生（現在経企庁長官）を囲む会と云うことで、年に四回位、日本投資㈱川手社長のおきも入りで集まつているのが日盛会である。色々な業種の社長や専務の方々が、それ〳〵言い たいこと云つて、藤山先生の御批判を乞うたり、中小企業の切実な経営苦を訴えたりして、先生には少々御迷惑のようだが、本年は藤山先生が政府の立役者として、経企庁長官に御就任されて、公債発行や公共料金の値上げやらで、経済界に明暗の材料が山積みしているだけに、此の度の例会は、今までとは何か違つた緊張感が、会場一杯にみなぎつていた。

十二時三十分藤山先生を昼食のテーブルにお迎えして、川手社長から開会の言葉が述べられ、引続き栗田電機の栗田社長から新年の挨拶があつて、一同ビールにのどをうるおしながら極めて和やかな空気の中で藤山先生から本年度の思い切つた施策や経済界の今後の具体的な見透しなぜについて懇切丁寧な御説明をいただいて、一同深く感銘するところがあつた。引続き各社の社長連がそれ〳〵の立場から今までの政府当局に対する相当突込んだ質問や稍々辛辣過ぎはしないかと思われるような批判や注文など、が飛び出して仲々尽くるところがなかつた。やがて日邦機器の井上社長の謝辞と閉会の言葉を最後に一同記念撮影なぞに納まつて午後二時解散した。

当日の出席会社（泉沢製作、伊藤電機、栗田電機、近藤組、武正商店、東京スリーボンド、日本機械土木、日本ロール、日本機器、日本投資、日盛商事、三笠産業）

藤山先生を囲んで、ホテルニュージャパンにて

◇第九回笠友会総会開く

（三月二十九日山中温泉山水閣にて）

三笠産業㈱の下請工場並に出入業者を以て、結成されている笠友会（会長桜電機㈱加藤社長）では、石川県山中温泉で第九回目の総会を開いた。

今年は曹洞宗の大本山永平寺詣と、すつかり仏心を出して、上野発の夜行列車で総勢三十四名（欠席、泉田工業泉田社長、三笠産業村松専務）寝台車にゆられながら、幹事のおはからいでお差し入れの薬が利いて一同、ぐつすりと一と眠り、翌朝八時加賀百万石の城下金沢を振出しに折から北陸特有の氷雨をついて、兼六公園、安宅の関、寺井の九谷焼窯元、東尋坊、吉崎御坊なぞ次々とバスで見歩いた。やがて、山中温泉の山水閣に入つたのは午后四時半「山中温泉は、すぐれた溪谷美と情緒豊かな民謡山中節で全国的に知られた唄の湯の町で「谷にや水音、峰には嵐、あいの山中湯の匂い」などと唄われ水無山を背景に黒谷川の清流に囲まれた四季とりどりの風趣は実に素晴らしいとのこと、温泉の由来は遠く一三〇〇年の昔、僧行基の発見によると伝えられ蓮如上人や芭蕉等も此の湯を訪ね、爾来文人墨客の杖を止めるものひきも切らずとのことである。一風呂浴びて憩う暇もなく丹前姿の儘総会に臨み、先ずは加藤会長の挨拶に次いで三笠の京谷社長から今後の明るい見透しに対して、会社としての確固たる新方針が披歴され、会員一同深く意を強くしてお互の協力を誓い合つた。やがて懇親会は和気藹々裡に続けられ、当夜の圧巻である山中名物の七人の若者たちによる獅子太鼓のバチ捌きにはすつかり魅了されてしばし拍手が鳴り止まなかつた。

翌朝、小雪降る中を永平寺に参拝、広大な境内の遠近に残る春雪を物珍らしくながめながら広々とした大伽藍を一巡し、福井から敦賀湾に出て、名物の越前蟹を土産に一路琵琶湖を南下して、米原に向い、午后五時新幹線で帰路についた。

今回の旅行は雨のため多少の支障はあつたが、それでも会員中初めて訪れた人が多かつたので、頗る好評だつた。全般に道路は完全舗装されていたし、旅館のサービスも流石に西の方々は如才なくて好感が持てた。只残念だつたのは切角の記念写真が間に合わなかつたことだつた。

当日の参加会社次の通り（桜電機、中央螺旋、田摩フレックス、田沼製作、斉藤機械、鯨井鋳造、福岡製作、柿沼製作、富士機工、栄光商会、佐藤機械、日本トムソン、小林木工、富士重工、昭南発条、新日本鍛工、三洋機械、ナガセ鋼機、金子機械、モーリス工業、越田商工、鈴木製作、国光工業、中央機材、理研ダイヤモンド、朝川印刷）

三笠側参加者

京谷社長、京谷専務

吉田常務、小林工場長

長谷川工場長、川口課長

斉藤課長

× × × ×